（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業に係る宮崎県環境影響評価専門委員会

議事概要

日　時：令和８年８月３１日（月）　午後１時３０分から午後３時４０分まで
場　所：宮崎県庁防災庁舎５階　５３号室
出席者：宮崎県環境影響評価専門委員会委員　９名　※　１名はオンライン参加
　　事業者側　１１名
　　事務局　５名

当委員会は、令和８年８月６日付けで、「（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業」の環境影響評価準備書に対する環境の保全の見地からの意見について、知事から諮問を受けた。知事への答申を作成するため、以下のとおり委員会を開催した。

１　開会

２　議事
「（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業」の環境影響評価準備書について
⑴　事業概要説明、環境影響評価結果の説明

⑵　委員の事前質疑に対する事業者の回答

⑶　質疑応答
各委員からの主な意見、質疑及び事業者の回答は以下のとおり。

（Ａ委員）
・　土壌改変における土砂災害対策の工事において、法面緑化に用いる植物について伺いたい。建設位置が希少植物の生息地であるが、どのような植物を用いる予定か。外来種ではなく、在来種を選択することを検討しているのか。
→　可能な限り在来種の検討を行いたいと考えているが、防災の観点からなるべく早い緑化となると、外来種に頼らざるを得ない側面もある。今後、種子の配合のバランスについて適切に検討したいと考えている。

（Ｂ委員）
・　小動物が工事用地周辺に設置する側溝に落下した際の、出口や脱出手段は講じられているか。また、ニホンジカの対策については、個体数が増加した場合に銃猟等の対策を実施するのか。
→　一点目については、落下後の小動物のはい出しが難しいＵ字溝の採用は、可能な限り少なくする等の環境保全措置を検討している。二点目については、弊社の運営する他の発電所の事例において、地元の猟友会やハンターと連携してシカの罠を設置し、捕獲後には個別で報償金を支払うことで、頭数調整に貢献している。本事業においても、このような取組を通して個体数の頭数調整に貢献したいと考えている。

・　鹿児島県側でカモシカの糞が見つかったが、調査の結果、全てシカの糞であったということについて、ＤＮＡ分析を用いてシカかカモシカかの判別を検討したのか。
→　調査を行っているが、明らかにカモシカと思われるようなものは確認されなかった。また、ＤＮＡの分析までは実施していない。
・　４月と９月にコムクドリの群れが通過するが、設置区域よりも東側にずれているため影響はないという説明であった。しかし、上空を通らないから影響はないという点については納得しがたい。
→　現地調査では、ちょっとまとまった群れが事業地の東側で確認されたものの、大きな群れとしては確認できていない。ただ、今後、移動等も考えられるため、事後調査を実施する中で、万一大きな影響が出ているようであれば、専門家等の意見を聞きつつ適切に対応していく。

（Ｃ委員）
・　パラグライダーの飛行時には風力発電機を一時停止するとのことであるが、関係機関との連絡はどのように実施するのか。
→　運用方法については、現在、施設設置者であるえびの市と協議中であり、現時点で決定している段階ではない。弊社としては、利用者から施設設置者であるえびの市へ届出が行われ、個人情報を秘匿した上で弊社に共有いただき、該当の時間帯に必要な風力発電機の一時停止を行う方向で検討している。

（Ｄ委員）
・　シカが多い中での緑化の確実性についてはどのように考えているのか。
→　確実性という点においては、過去の実績等も含めて難しいところがある。シカ対策としては、防止用マットや金網の設置等による食害防止対策を行っているものの、効果には大小があり、確立された対策はないというのが現状である。今後は状況を逐次確認しながら、難しい場合には追加の種子散布を行うなど、観察を続けながら対応していきたい。
・　準備書の中で、防災対策・土砂流出に関して、責任を持って対処しますと様々な箇所で記載されているように，緑化に対しても記述していただければと思う。
→　御意見を踏まえ、引き続き検討を進める。

（Ｅ委員）
・　景観の予測結果について、矢岳展望台と真幸駅における垂直見込角は他と比べて非常に大きな数値だと思う。景観に関する環境保全措置がブレードの塗装のみとなっているが、この垂直見込角の大きさについてどのように評価しているのか。
→　尾根上に風力発電機を建設することから、現況の景観から変化が生じることは物理的に起こり得る。その上で、可能な限りの影響低減として、グレー系などの周辺色彩と可能な限り調和する色を選定することが、でき得る範囲の環境保全措

置であると考えている。また、垂直見込角については、準備書に記載のとおり、鉄塔の見え方に関する事項やＮＥＤＯの研究報告書に沿って評価を行った。

・　肥薩線の運行の見通しが立った際には、眺望に関して、どのような調査を考えているのか。

→　肥薩線が全面復旧した際には、眺望に関する調査や予測評価をしっかりと行いたい。

（Ｆ委員）

・　地域住民から特に質問が多かったと思われる超低周波音と振動の問題について、事業開始後に地域住民から問い合わせがあった場合にはヒアリングを実施して対応すると記載されているが、具体的な対応方法はどのように考えているのか。

→　保守・運転・メンテナンス担当として４～５名程度が現地に常駐するため、そこが窓口となって問い合わせを受け付ける。問い合わせがあった場合の対応としては、実際に当該住民の自宅を訪問し、調査機械を持参してどのような音が聞こえているのかを観測・調査したいと考えている。その音が実際に風力発電機から発生している騒音・低周波音・超低周波音であるかを把握した上で、住民の方と適切に対話を行い、必要な対策を検討したい。

・　景観に関して、２号機から６号機が目立っており影響が大きそうだが、これらを少し低いものに変更するような検討は行ったのか。出力やコストの関係から、全ての風力発電機を同じ高さに揃えることになったということか。

→　発電量を適切に確保する観点から、可能な限り安定的に風を受けられる高さを風車の高さとして設定した。

⑷　希少動植物に関する説明及び質疑応答

※　希少動植物の生息地等に関する審議内容を含むため、非公開とする。

⑸　委員審議

質疑応答を踏まえ、委員による協議が行われた結果、以下のとおり答申の内容をまとめることで合意が得られた。

ア　本日の議論を基に答申の内容を事務局で作成し、事務局から各委員に素案を提示する。

イ　最終的な細かい表現等の調整は、会長及び事務局に一任する。

３　閉会